



発行所
天理教祝梅分教会
千歳市祝梅 598
☎0123-29-2055
復刊第五十七号

元旦祭 講話 抜粋

立教百八十九年の新春を迎え、親神様の御守護のもと、皆様と共に新たな年を出発できますことを、心よりありがたく存じます。

昨年、それぞれの立場において日々のつとめとにいがけにお励みくださり、誠にありがとうございました。

本年も教祖のひながたを心の杖として、互いにたすけ合い、陽気ぐらし世界の実現に向かって、一歩一歩着実に歩ませていただきたいと存じます。

立教百八十九年が、皆様お一人おひとりにとって、心新たに信仰を深める一年となりますよう、共々に勇んで通らせていただきましよう。

真柱様は、この三年間で

「教祖は、五十年の間、どんなことが起こっても諦めることなく、丹精し続けられたということ、これもひながたとして忘れてはならないことではないかと思うのでございます。」

「一人でも多くの人を、この道に引き寄せさせていただく努力とともに、道具衆の自覚を持って、教えを実行するようになるまで辛抱強く心を掛けていくこと、また、すでによふぼくになってはいるが、いま一且休憩している人も、やはり一人でも多く、よふぼくの自覚を持って動いてくれるように働きかけを続ける。」

「年祭の当日、おちばへ帰ってきてもこなくても、その日をうれいし心で迎えることができるように」と私たちに言葉をくださいました。

特に「おちばへ帰ってきててもこなくても、その日をうれいし心で迎えることができるように」ということを考えると年祭の当日にどのようなことをさせていただければよいか考えるところです。

※3ページに記載しました。

十二月祭典講話 抜粋

十二月八日に千歳市では震度五弱の地震がありました。教会は被害がありませんでした。

皆さんも不安な時間を過ごされたかと思えます。

この後も余震に気がつけたいと思います。

先日、腰痛でどうしようもなくして市内の整骨院を尋ねました。そこでは、カウンセリングをしてみらいたし術してもらいましたが、原因を探るのですね。

普段は何をしていますか？ 運動はしていますか？ 趣味は何ですか？

運動不足や疲労など納得してもらう原因を探るのですね。

原因がわかれば安心する。安心して予防対策ができます。

しかし、私たちは前生の「いんねん」という身の覚えのない「いんねん」があります。しかも果たさなくてはならない。

ここを素直に受け入れるか？ 成人させていたどうかと歩ませていただくなかで見せいただく身上や事情に前生のいんねんを悟ることができるのかというと覚悟が必要になります。

そして、その覚悟や心定めが、御守護に繋がるのだと信じているのであります。

まだ腰は完治していませんが、それよりも前生のいんねんを見させていただく親心をしっかりと心に納得し、納得できなくても今生から来生も天理教を信仰させていただきたいと強く感じています。



春季大祭神殿講話(抜粋)

祝梅分教会長

高橋美津志

私達は新年を迎えますと、一年の暮らし方を、このように通りたいあるいは、こういう気持ち・こういう心で暮らしていきたいと心を定めます。したがってその目標に向かって努力をするところに自分の願いが叶えられていく。努力なき人生に決して喜びはない。

十二月三十日の朝日新聞の四コマ漫画に、作者の一年の希望・抱負が書いてありました。それには修行と書いて、どこまでやれるかと書いてありました。

一つには、悪口を言われると言いつ返す。次には悪口を言われると忍耐し我慢をする。二つめには悪口を言われても何とも思わない。四つめは悪口を言われると相手の人の健康を祈ると。作者サトウサンペイが描くフジ三太郎の漫画です。今年一年、どこまでやれるか。

悪口・陰口を言われたら言い返す
これは誰でもやれる。ところが、

そこを通りこして修行が出来たら悪口を言われてもじっと我慢をする。この修行が出来たら次に悪口を言われても何とも思わない。心に腹立ちが起きてこない。次には悪口を言われると相手の健康を祈る。はたして作者は、今年一年どこまで修行ができるのかと言うのを書いてあるのです。

仏教の話では、お釈迦さんが目の前でさんざん悪口を言われた。その時にお釈迦さんは、黙ってそれを聞いていて、曰く、そして、「汝、人に贈物を出した時に相手が受取らなかったら、この品物は誰のものだ。」と尋ねると、散々悪口を言ったその人は、「出して相手が受取らなかったら、差し出した人のものだ。」と答えました。するとお釈迦さんは、「しかし、汝の悪口を私は一切受取らなかった。だから悪口は汝のものだ。」これがお釈迦さんの教えなんです。

悪口を言われても、それを受取らないから、悪口を言った人が悪口を受取らないといけないと言っています。

ところが天理教の教祖は違います。『……………中…略…教祖逸話のお金の貸し借りの話し…………』

ですから教祖は、「人に悪口を言われたら、悪口を言った人の後ろ姿を拜んで、自分の悪い因縁を取ってくださった方だと感謝をなささい。」と言ったのです。これが教祖の教えなのです。

しかし、世間の人は、相手の人の健康を願う、こう言つ心優しい人になりたいと努力するんです。しかし私達の信仰は、これをはるかに超えて、現れてきた事は身に覚えがなくても全て前生の姿である。己れの前生を見せてくれる人だと言って、相手を拜むような優しい低い心を持つのが天理教の教えなのです。

そして、悪口を言われたら、その人が自分のほこりを取ってくれる人だと言って感謝をする。

ここに天理教の素晴らしい信仰が

あるのです。ですから私達は、今年どのような心定めをするのか。

心定めをするのなら、どこまでやれるのか、せめて教祖の教えのように、身に覚えがなくても、自分の目の前に見えて来る事、現れて来る事は、『見るも因縁・聞くも因縁、世話どりするはなおの事。』と言って全て神様が、その人を助けてやりたい為に、前生から持ち越しの悪い運命を切ってやって幸せにさせたい為に、私達の日に見せてくれ聞かせてくれ、身に現せてくれるのだと。そのように考えて、なって来たこと全てを喜びに切り替えて行くような努力をさせて頂く事が大切だと言つ事を心において、明るい一年を通して頂きたいと思っております。

「定めても定めても、定め足りないのが人の心の誠である。」と昔の人は言ったのです。

どうか皆様方にもしっかりと、一つの目標を心に定めて、今年一年はお互いに幸せな喜べるような陽気くらしの日々を通らせて頂きたいと念願しております。

一月二十六日 午前十時三十分より教祖百四十年祭がつとめられます。

本日は、おぢばより離れたこの場所より教祖百四十年祭を迎えさせていただきました。

ご存命の教祖は、月日のやしろとしてお定まりくだされてより私たちを親心でお連れ通りくださいました。誠にありがとうございます。

私たちは、教祖の道具衆どうぐしゅうとしてお使い頂く喜びを胸たに湛たえて心勇んで新たな成人の道へのかど門出をお誓い申し上げます。
なにとぞ

何卒、この心をお受け取り下さいまして、新しい芽生めえの道をお見せ下さると共に、
日一日と成人の道をお連れ通り下さいますよう、お願い申し上げます。

一月二十六日に自宅におられる方は、親神様の前で、お読みいただくか、
お仕事の方は、心のなかで「おやさま ありがとうございます」と
唱えていただければ幸いです。

『相手は鏡』

◎相手に

不足、不満、腹立ち、憎しみが
おきたとき、相手と自分を一対一で
見ているからである。

一対一ではなく、相手と自分の上に
親神さまがおられるという三角形の
見方をすれば、親神さまが相手に
入り込んで自分の前世のいんねんや
今の心遣いの姿を見せて下さっている
思案ができ、憎しみを抱いた相手が
実は自分の運命や心遣いの掃除を教えて
くれる恩人に見えてくる。

○人はみな己れを正す鏡である。

ハイ！
ちょっとひとこと



第44回若人会総会のご案内

立教189年（令和8年）3月21日（土）霊祭の後、つとめます。

詳細は後日お知らせいたします。

なお、3月22日（日）は夕張団総会が大教会で開催されます。

こちらも詳細は後日ご連絡いたします。

役割は、9～12下り目 祝梅、長沼、北夕、幌都、夕喜元 です。

あとがき

いよいよ今月二十六日は教祖百四十年
祭です。

祝梅分教会では「教祖のひながたを
定規として喜び心で通ろう」を目標にし
てまいりました。

喜び心は、次の喜びを呼び寄せてくれ
ます。その様にして喜びが広がって行き
ます。

でも、なかなか喜ぼうと思っても喜べる
ものではありません。喜びは心の底から
湧き上がって来るものです。そんな喜べ
ない時に教祖の「ひながた」が喜びのヒ
ントになります。

それでも、どうしても喜べない心の時
「おつとめ」をする事や、人のたすかり
を願う事で、心に喜びが湧いてきた経験
はありませんか？

親神様は早く陽気ぐらしをさせてやり
たいとの思いで「おつとめ」や「おたす
け」を教えてくださいました。

特に「おつとめ」は教祖が二十五年の定
命を縮めてまでも、せき込まれました。
教祖年祭のこの年、「おつとめ」をしっか
り勤める一年にしたいと思います。

今年も宜しくお願い致します。

高橋多江子